

アウトドアフェスティバル開く

11月11日、せんとびゅあI(旧文化芸術交流センター)で今年も東川アウトドアフェスティバル実行委員会(中川伸也実行委員長)主催の東川アウトドアフェスティバル2018が開かれました。



カナダ・バンフで開かれていた「バンフ・マウンテン・フィルムフェスティバル」の映像作品の中から、大自然に挑む冒険を記録したドキュメンタリーを紹介する企画として始まって6年目。驚くべき映像作品を毎年紹介してきました。

「ヤング・ガンズ」は、アメリカ在住の日本人フリークライマー、白石阿島(あしま)(16)が5年ぶりに成長した姿で登場しました。「天性のクライマー」「新世代のリーダー」などと驚異的能力を秘めた阿島と、米国人カイ・ライトナーとの新たな挑戦を美しくつづったドキュメント。目も眩む峡谷に張ったロープ上で空中サーフィンに挑む「サーフ・ザ・ライン」、国民的英雄となったシャエルバの人生を描いた「ラウド・バイ・オール」など9

本を上映しました。3人の写真家が東川を撮り競って来場者に投票してもらおうという5回目のスライドセッションは、野原肇さん(36) 東京、矢野貴大さん(30) 深川、ジミー・オカヤマさん(46) 札幌の3人が36時間で制作した東川を映像作品として発表しました。

会場は、町内の山グズ店、飲食店などの出店ブースも並び、楽しいお祭りを演出しました。

全国障害者スポーツ大会で銅メダル

第18回全国障害者スポーツ大会(福井しあわせ元気大会、10月13-15日・福井市など9市2町で開催)の陸上競技(知的障がい)に出場した浅野滉太さん(16) 東町1、美深高等養護学校あいつつ校1年が男子(少年の部)200m、同400mでそれぞれ3位、8位に入賞して凱旋しました。11月2日に来庁しました。七宝焼きを銅環で包んだ手ごたえのある銅メダ



ルを披露し、松岡市郎町長に受賞報告しました。父親の転勤で昨年東川に移住してきました。清里町に住んでいた小学生時代、3年間陸上スポーツ少年団で活動し、中学校では陸上部に所属。各種スポーツ大会でメダル4個を獲得する成績を残しているそう。スポーツが大好きだと言い、「年中スポーツをしていた。夏期は

増山壽一元北海道経済産業局長が来町し、10月25日、せんとびゅあIで「ローカルからグローバルへ」と題して講演しました。「北海道は別格。宝の島になる可能性がある」と前置きました。「北極海航路で北海道はヨーロッパから一番近い。地球温暖化によって北海道は世界の真ん中になる。熱いアジアの亜熱帯気候の国々の中で、唯一の太平洋気候。治安が良く、公共交通、正確な交通インフラ、乳製品がある」と魅力

地方から世界の舞台へ 増山元道産産局長講演



の半面「鉄道、電力問題、人口減少を抱え、今は閉塞感がある」とも。その解決策として「輸送、観光手段の共同化、医療、自動運転技術など新たな技術、組織、市場の創出」など新分野創出に向けてシェアリングエコノミー、AI(人工知能)と農業・酪農との結びつき、eスポーツ、フィンテック、エネルギーの地産地消などの可能性と北海道モデルの創出の必要性を取り上げました。

町とJAFとが観光協定

東川町は(一社)日本自動車連盟(矢代隆義会長、以下通称JAF)と観光情報の発信、協力で連携する観光協定を結びました。

10月26日、山本淳一旭川支部事務所長ら同連盟関係者が来庁し、長原淳副町長との間で署名・協定を結びました。「地域の観光振興と会員ドライバーのサービス強化に役立てたい」との意向を示しました。



協定は①地域の観光振興に関すること②その他地域振興に関すること③JAFの観光情報登録システムを利用し、について双方で情報提供の協力を進めるもの。

JAFの観光情報システムとは、インターネットサイト、JAFナビ上で東川町が利用料(年度ごと)を支払って作成したモデルドライブプランなどコンテンツを告知するものです。町が運営するインターネットサイトなど情報発信をリンクさせ、接続を容易にすること、システム運用は1団体に限り観光団体に委託できることを定めまし

た。山本所長は「道内では36協定、旭川支部として6番目の協定となった。普通の観光スポットとは違う観光情報をいただくことで、会員ドライバーに魅力ある情報を提供したい。5人に一人がJAF会員。観光資源を活用して地域振興に役立つ協力を進め、ドライバーサービスを強化したい」とあいさつ。長原副町長は「観光客は年間145万人来てくれているが、情報発信が不足している。協定提携によっていっそう情報発信したい」と期待を込めました。

秋のつばき、国民文化祭 11月3日、農村環境改善センターで第48回町民総合文化祭の芸能発表会と茶会が開かれました。文化ギャラリイでは手芸、書道、陶芸、絵画、盆栽などの総合作品展、ふるさと交流センターでは囲碁大会も開かれ最終日のにぎわいを見せました。午前中は旭川福祉専門学校の学生が

君の椅子、家族集まり交流会

10月28日、地域交流センターで「君の椅子の集い」が開かれました。



「君の椅子」は、生まれてきた子に椅子を贈るプロジェクト。磯田憲一同プロジェクト代表の提唱で、2006(平成18)年東川町から始まりました。その後賛同する自治体が増え、4月新たに福島県双葉郡葛尾村(篠木弘村長)が加わって、13年間に7町村の広域連携の輪が広がりました。東川、剣淵、愛別、東神楽、中川の各町からかつて君の椅子を受け取った家族、君の椅子倶楽部で椅子を購入した48家族ら約100人が集いました。

東3号北6線の君の椅子の森でエゾヤマザクラ50本を記念植樹。地域交流センターで昼食会と交流会を開き親交を深めました。磯田代表は「今年で13年目。3年後には2千人目の赤ちゃんが生まれる。その時も再び集まろう。未来に向かうプロジェクトを続けたい」とあいさつしました。2010(平成22)年デザインの制作者、三谷龍二さん(66) 長野県松本市も出席。「毎日の暮らしが輝いていることが何よりも良いという大事なことを伝えている」などと話しました。

秋のつばき、国民文化祭

11月3日、農村環境改善センターで第48回町民総合文化祭の芸能発表会と茶会が開かれました。文化ギャラリイでは手芸、書道、陶芸、絵画、盆栽などの総合作品展、ふるさと交流センターでは囲碁大会も開かれ最終日のにぎわいを見せました。午前中は旭川福祉専門学校の学生が



スクールバンド、吹奏楽部出演、太鼓郷土芸能発表が目白押し。日本語学校のベトナム、タイ、中国、台湾、韓国からの留学生の皆さんがみずほコーラスと一緒に合唱出演したり、大正琴の演奏、日本舞踊、詩吟・剣舞に見事な舞いを披露しました。